

子どもの「体験格差」実態調査 最終報告書

ダイジェスト版

本紙は、『子どもの「体験格差」実態調査 最終報告書』をもとに、作成したダイジェスト版です。

抜粋 P00

最終報告書から抜粋したページ（全く同じ内容）は、タイトルの横に左記の緑色のラベルを貼っています。

参照 P00

最終報告書を参照したページ（要素をまとめる等した内容）は、タイトルの横に左記のオレンジ色のラベルを貼っています。

最終

最終報告書で新たに追加された調査結果のページには、左記の赤色のラベルを貼っています。

※ラベルがないページは、本スライドのみに掲載している資料です。

対象者	小学1年生～6年生の子どもがいる世帯の保護者
調査期間	2022年10月12日～10月14日
調査方法	インターネットアンケート調査会社のモニターを利用したWEB調査（全国調査）
有効回答数	2,097件
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯年収、家族構成、保護者学歴、保護者職業 ・学校外の体験活動や学習活動への参加状況及び年間支出 ・子どもがやってみたくと思う体験をさせてあげられなかった経験・理由 ・物価高騰が子どもの学校外の体験や学習に与えた影響 ・保護者の小学生の頃の経験（体験活動への参加状況） など
調査体制	<p>実施主体：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン</p> <p>協力：小林 庸平（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員） 喜多下悠貴（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員）</p> <p>助成：みてね基金</p>

※本調査は、小林庸平氏、喜多下悠貴氏による調査設計や分析についての助言、協力のもと実施した。調査費については、みてね基金からの助成を受けた。ただし、調査内容や結果に関する一切の責任は、調査実施主体であるチャンス・フォー・チルドレンにあるものとする。

子どもの育ちにとって重要な体験は幅広く存在するが、
本調査では、特に「**学校以外の時間（放課後）**に行う体験」に焦点を当てた。
そのうえで、以下の通り「**体験活動**」を分類し、調査の対象範囲として設定した。

学校外の体験活動

定期的な体験活動（主に習い事、クラブ活動など）

スポーツ・運動

球技／水泳／武道・格闘技
／ダンス・バレエ・舞踏／
体操／陸上競技／ボーイス
カウト・ガールスカウト／
その他

文化芸術活動

音楽／アート・造形・工作
／演劇・ミュージカル／外
国文化（語学・英会話を除
く）／習字・書道／将棋・
囲碁／茶道・華道／料理／
科学・プログラミング／そ
の他

単発で行う体験活動

自然体験

キャンプ・登
山・川遊び・釣
り／海水浴・マ
リンスポーツ／
ウィンタース
ポーツ（ス
キー・スノ
ボー）／その他

社会体験

農業体験／職業
体験／ボラン
ティア／その他

文化的体験

動物園・水族
館・博物館・美
術館見学／音
楽・演劇・古典
芸能鑑賞又は体
験／スポーツ観
戦又は体験／留
学・ホームステ
イ・外国文化体
験／旅行・観光
／地域の行事・
お祭り・イベン
ト／その他

※「定期的な体験活動」は、企業・NPO・個人、地域や保護者のボランティア等が運営する団体・教室、学校の放課後活動等を含む。

※「単発で行う体験活動」は、企業・NPO・個人、地域や保護者のボランティア等が主催する活動、自治体・公的機関等が主催する活動の他、団体以外（保護者等が引率、個人・友人同士での活動）の活動も含む。

※「ボーイスカウト・ガールスカウト」の活動内容は、自然体験や文化的体験等の要素が大きいが、「定期的な活動」であるという性質を考慮し、上記の分類とした。

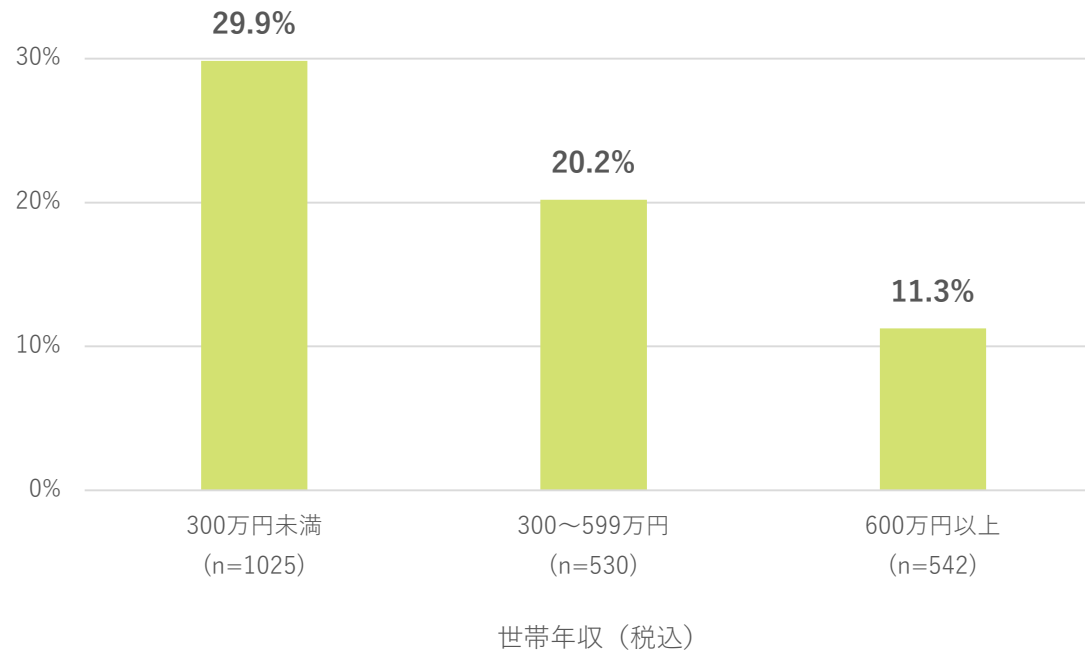
※本調査では、語学や英会話、そろばん等は、教科学習の要素が強いことを踏まえ、「学習活動」として位置付けるものとし、上記の「体験活動」の分類からは除外した（本調査における「学習活動」の種類：学習塾、家庭教師、オンライン・通信教育、語学・英会話、そろばん）。

調査結果 1

生まれと体験

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の子どもの約3人に1人が、1年を通じて学校外の体験活動を何もしていない（スポーツや文化芸術活動、自然体験、社会体験、文化的体験）。
- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の子どもにおける学校外の体験がない割合は、世帯年収600万円以上の世帯と比較して2.6倍高い。

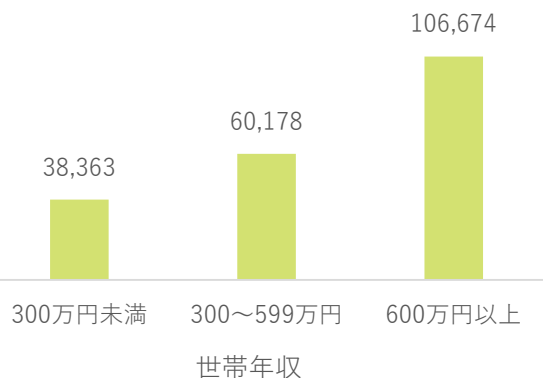
学校外の体験がない子どもの割合（直近1年間）



- ✓ 世帯年収、家族構成、居住地域、保護者の学歴、保護者の幼少期の経験など、家庭背景によって子どもの体験活動への年間支出額に差が生じていた。

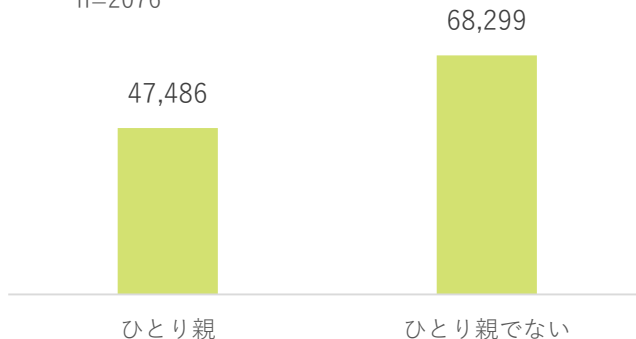
世帯年収別・体験活動支出（円）

n=2097



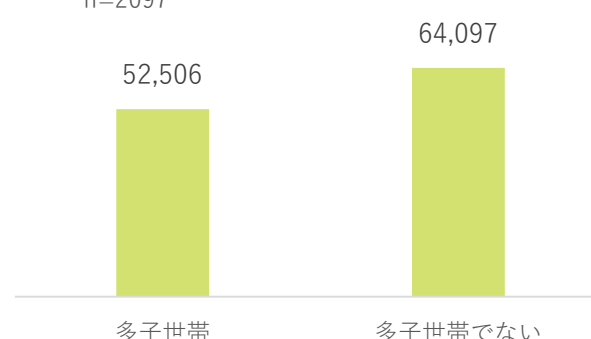
保護者人数別・体験活動支出（円）

n=2076



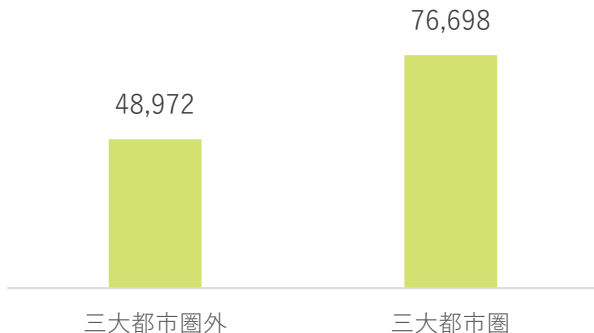
子人数別・体験活動支出（円）

n=2097



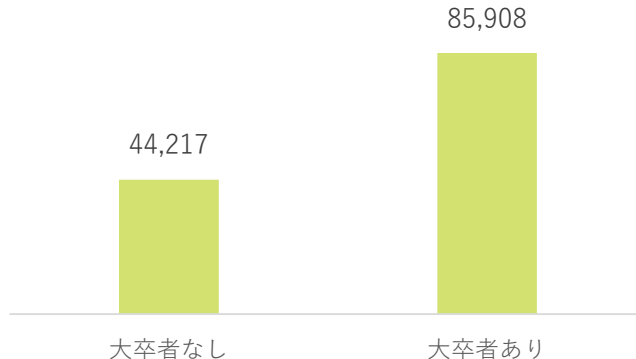
居住地域別・体験活動支出（円）

n=2097



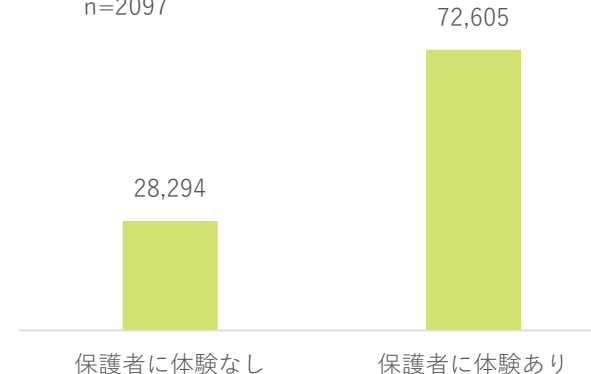
保護者学歴別・体験活動支出（円）

n=1929



保護者経験別・体験活動支出（円）

n=2097

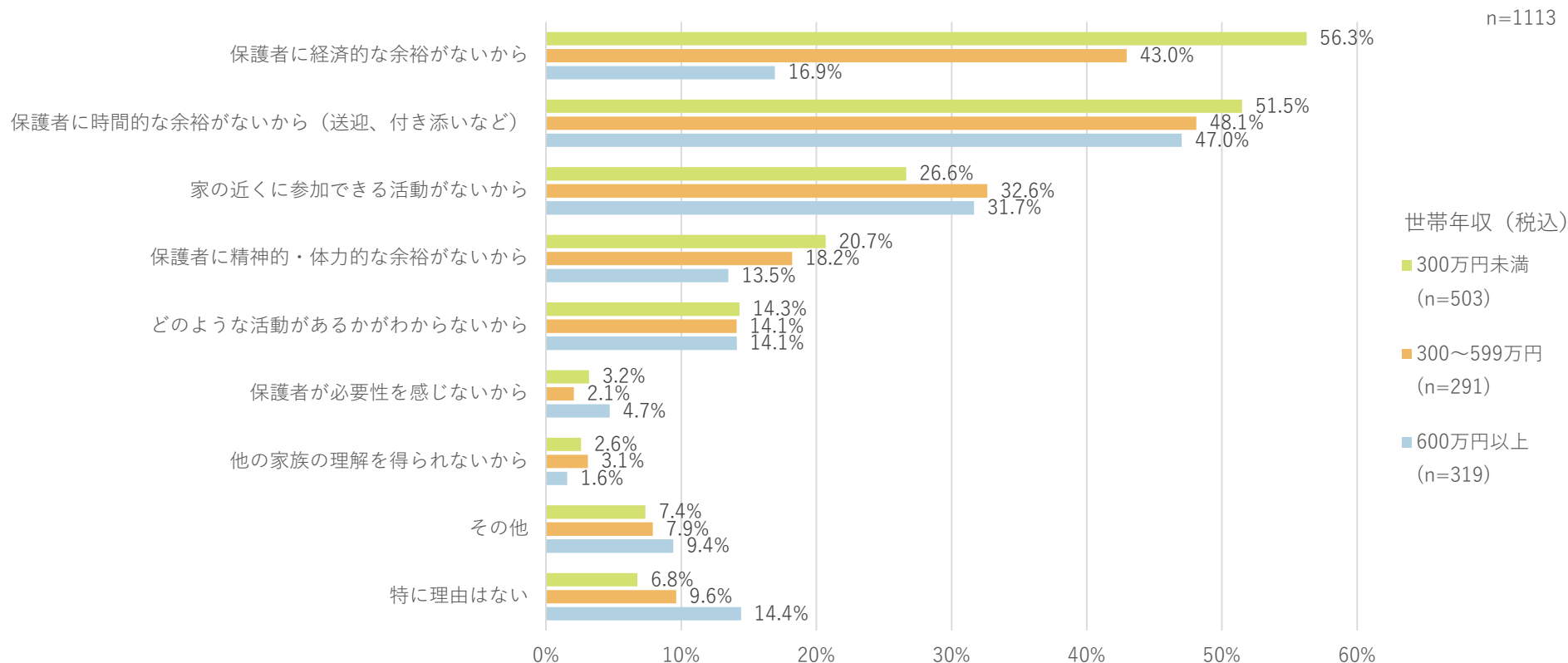


※「多子世帯」は子どもが3人以上の世帯とした。また、「三大都市圏」は、関東（千葉県、東京都、埼玉県、神奈川県）、中部（愛知県）、関西（京都府、大阪府、兵庫県）とした。

※保護者人数別および保護者学歴別のサンプル数が他と異なるのは、祖父母が養育している等で子どもの保護者がいないとした回答者や、学歴を「わからない」「その他」としていた回答者等を除外したため。

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭が、子どもに体験をさせてあげられなかった理由は、経済的理由の他にも、「保護者の時間的な余裕がない」(51.5%)、「近くに参加できる活動がない」(26.6%)、「保護者に精神的・体力的な余裕がない」(20.7%)等、多様な背景がある。

子どもがやってみたいと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由



※「お子様が学校以外の場でやってみたいと思う体験について、させてあげられなかった経験はありますか。当てはまるものがあれば、すべてお選びください。」という設問に対して、「特にない」と回答した者を除いた1,113名を対象に回答を求めた。そのうえで、「前問で選択した活動について、させてあげられなかった理由を教えてください。(複数選択)」と質問した回答結果。

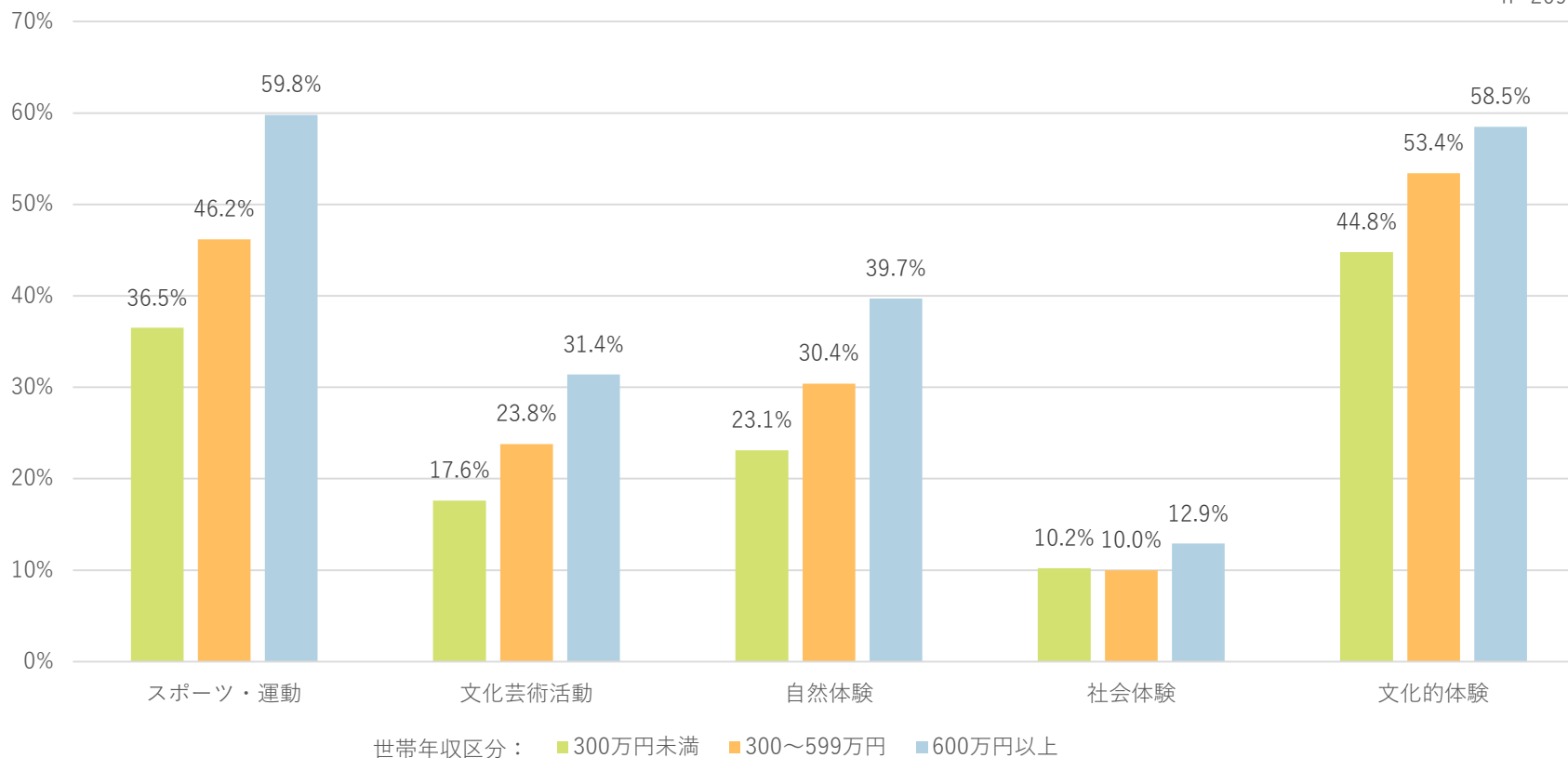
調査結果 2

活動分野別の体験格差

- ✓ 「社会体験」以外の全分野において、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で、子どもの体験参加率に10ポイント以上の差が生じている。
- ✓ 特にスポーツ・運動は20ポイント以上の差がある。

体験活動への参加割合（世帯年収別・活動分野別）

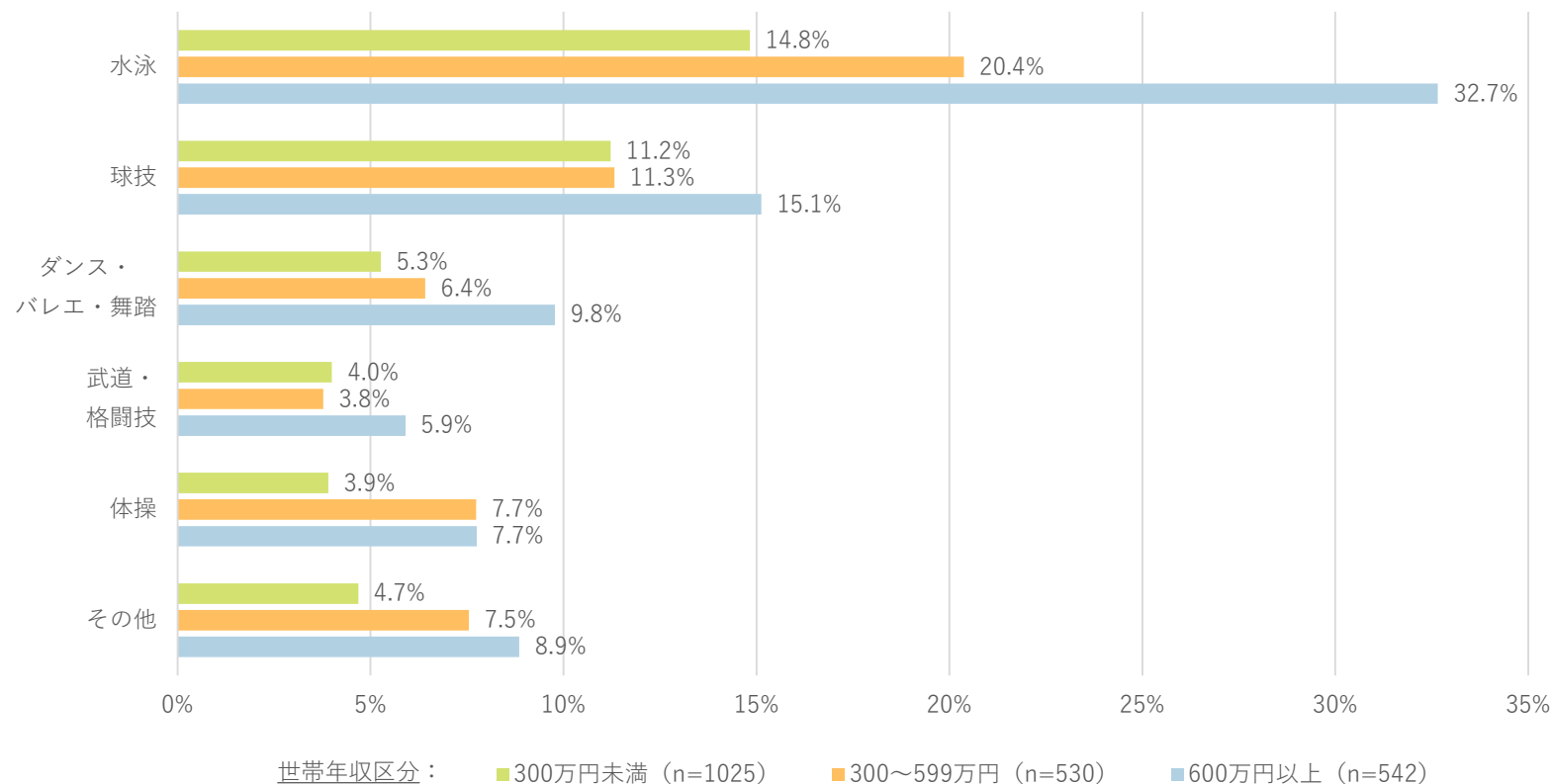
※複数選択
n=2097



- ✓ 概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「スポーツ・運動」に参加している子どもが多い。特に「水泳」は、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で、2.2倍の差が生じている。

各種「スポーツ・運動」に参加している子どもの割合（複数選択）

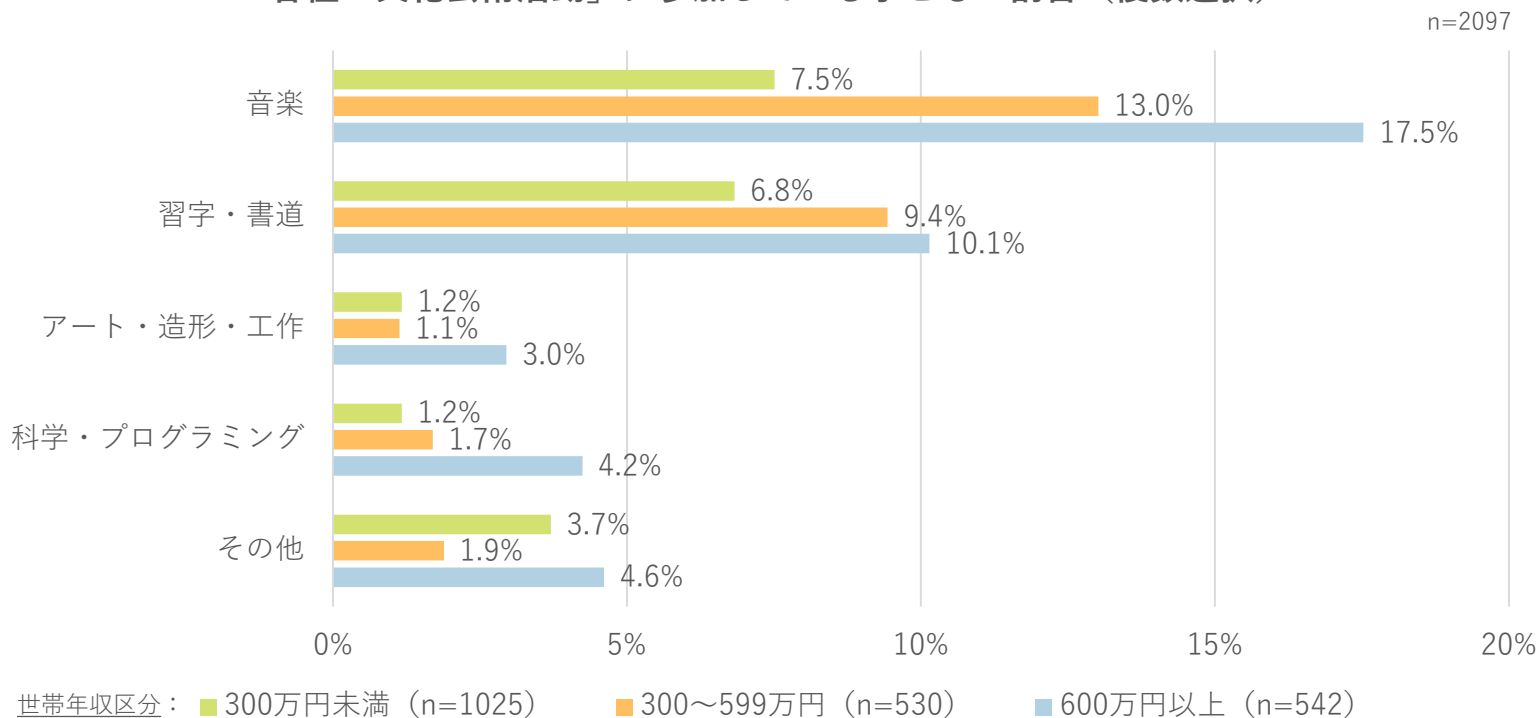
n=2097



※本グラフの「その他」には、参加者が100人以下の活動（「陸上競技」「ボーイスカウト・ガールスカウト」）および「その他」をまとめた。

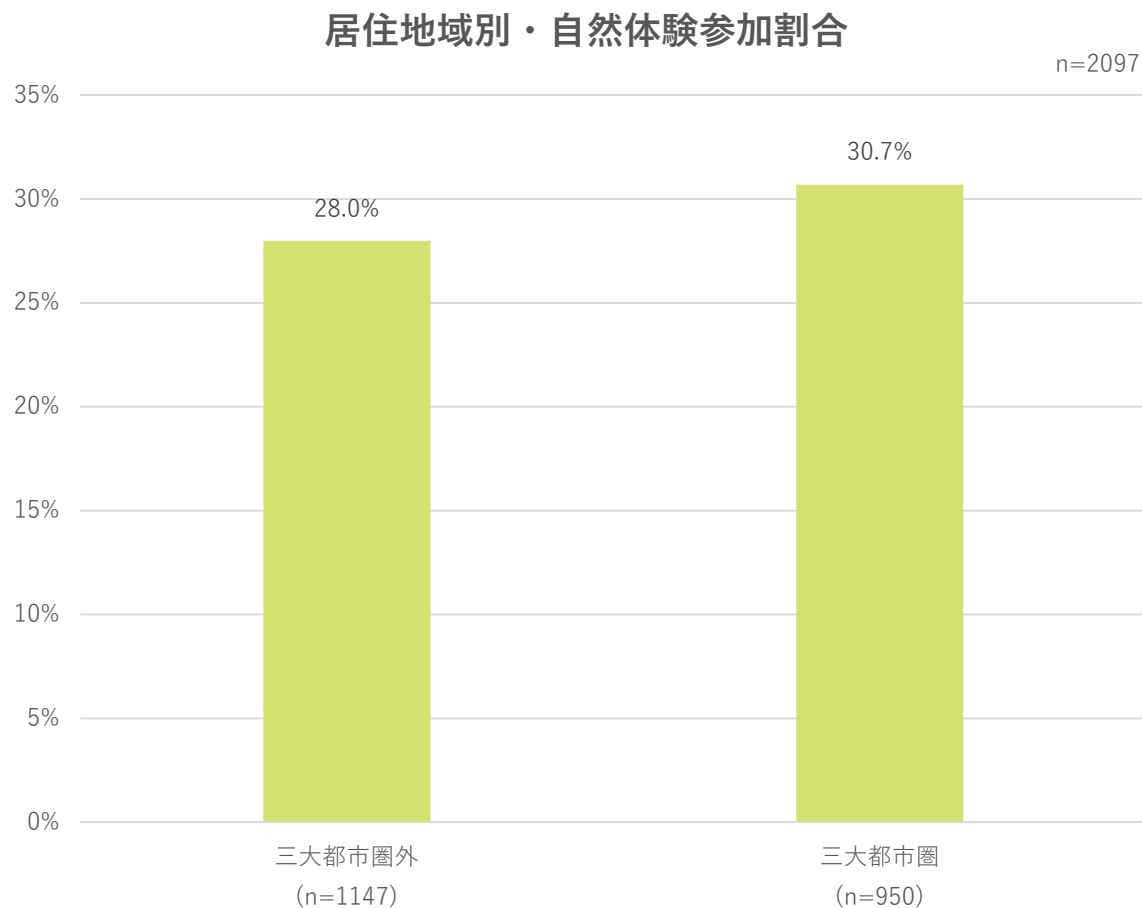
- ✓ 参加者が多い活動については、概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「文化芸術活動」に参加している子どもの割合が多い。特に「音楽」については、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で2.3倍の差が生じている。

各種「文化芸術活動」に参加している子どもの割合（複数選択）

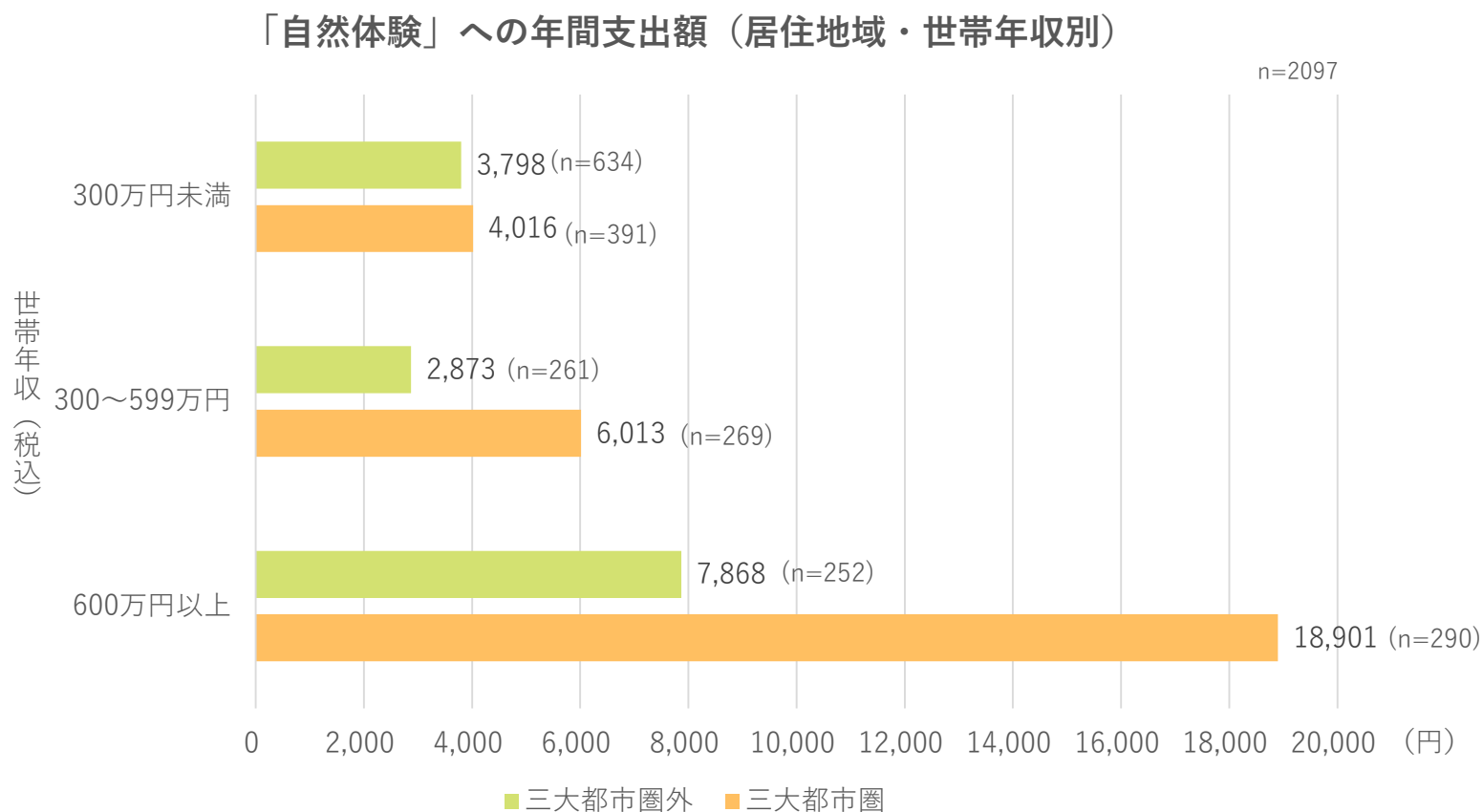


※本グラフの「その他」には、世帯年収300万円未満の家庭の子どもが参加している割合が1%以下の活動（「演劇・ミュージカル」「外国文化(語学・英会話を除く)」「将棋・囲碁」「茶道・華道」「料理」）及び「その他」をまとめた。

- ✓ 自然体験活動への参加割合は、居住地域別で大きな違いは確認できなかった。

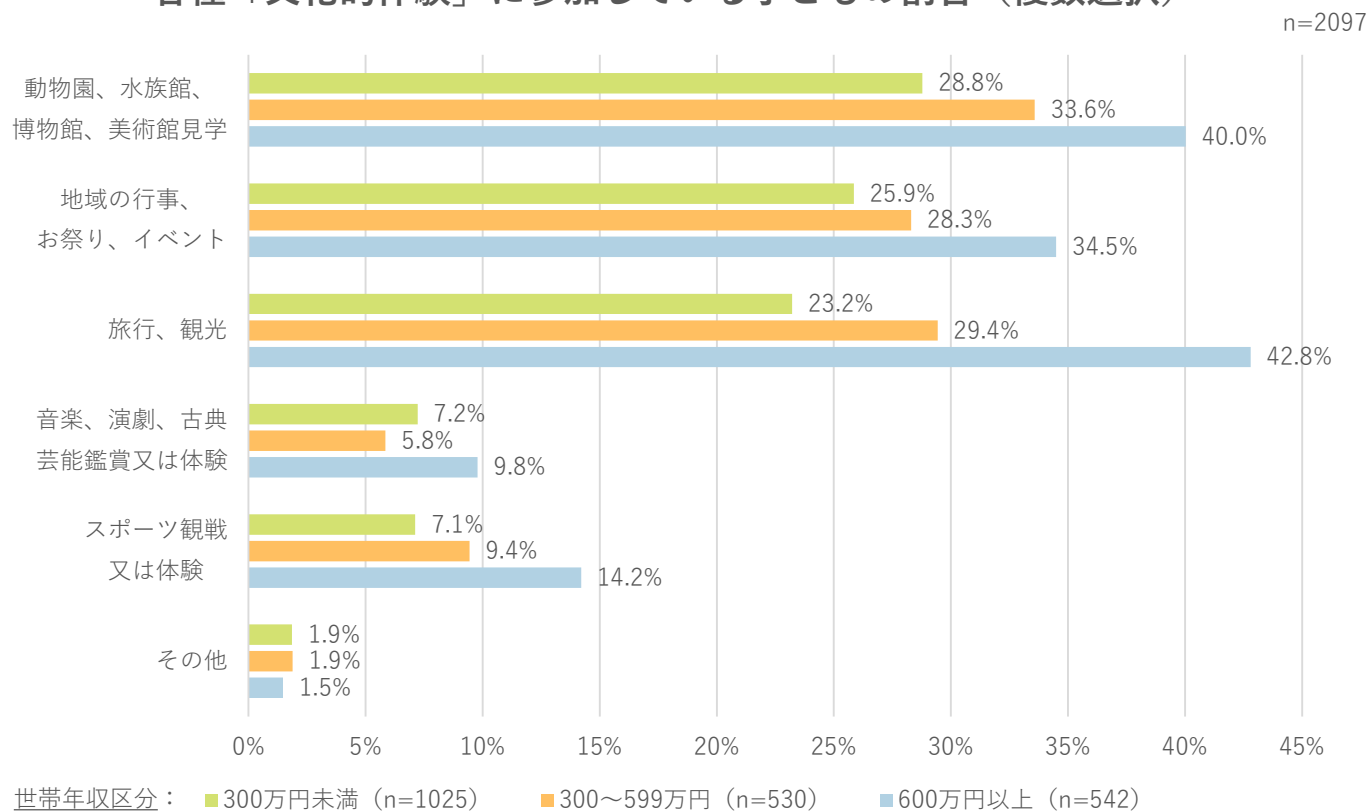


- ✓ 子どもの「自然体験」への年間支出額を居住地域および世帯年収別にみると、三大都市圏では世帯年収300万円未満の家庭（4,016円）と世帯年収600万円以上の家庭（18,901円）で、約4.7倍の差が生じていた。三大都市圏外では約2.0倍の差となっており、三大都市圏での格差が顕著である。



- ✓ 参加者が多い活動については、概ね世帯年収が高い家庭ほど、各種「文化的体験」に参加している子どもの割合が高い。特に「動物園、水族館、博物館、美術館見学」「旅行・観光」については、世帯年収300万円未満の家庭と世帯年収600万円以上の家庭で10ポイント以上の差が生じている。

各種「文化的体験」に参加している子どもの割合（複数選択）



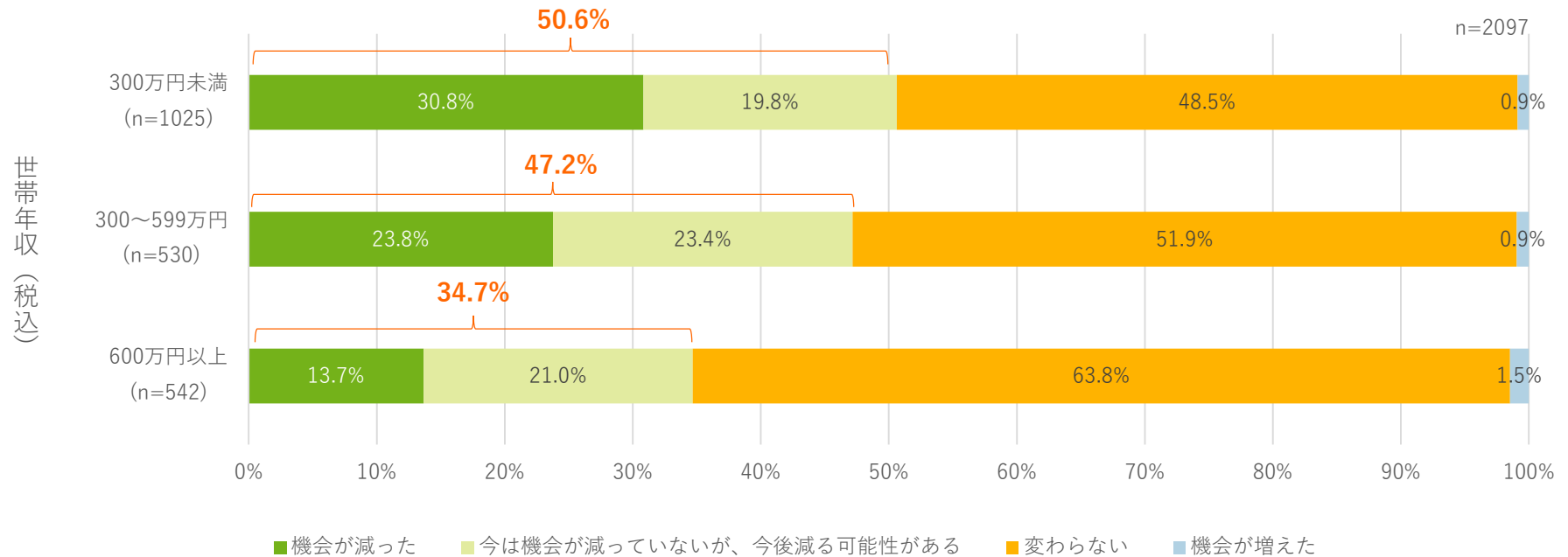
※本グラフの「その他」には、参加者が100人以下の活動（「留学、ホームステイ、外国文化体験」）及び「その他」をまとめた。

調査結果 3

物価高騰の影響

- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の約2人に1人（50.6%）が、物価高騰の影響で子どもの学校外の体験機会が減少した又は今後減少する可能性がある。
- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭のうち、物価高騰の影響で子どもの体験機会が減少したと回答した割合は、世帯年収600万円以上の家庭の2.2倍であった。

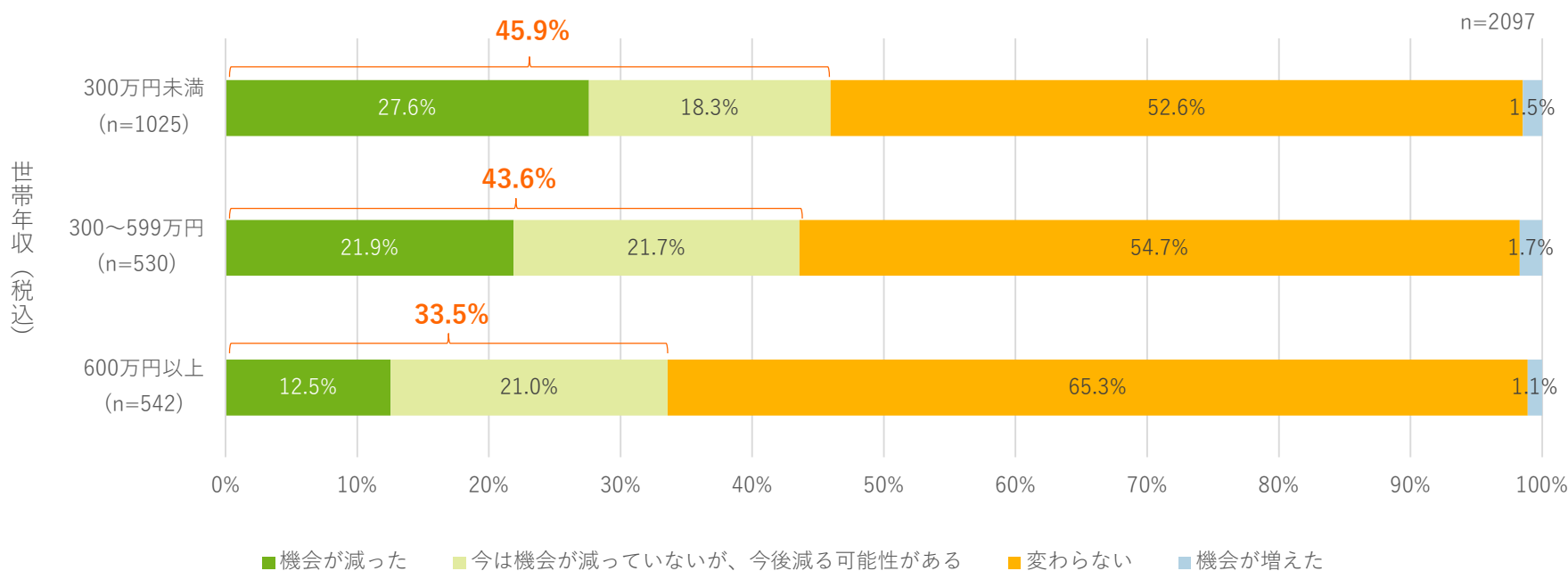
物価高騰が子どもの学校外の体験機会に与えた影響（世帯年収）



※「物価高騰は、お子様の学校以外の場での体験機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※体験機会とは、スポーツ、文化芸術活動などの習い事やクラブ活動、個人的又は団体に属して行う自然体験や社会体験、文化的体験等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。

- ✓ 物価高騰の影響は、子どもの体験機会だけでなく、学習機会の減少にもつながっている。
- ✓ 世帯年収300万円未満の家庭の物価高騰による「体験機会への影響」と「学習機会への影響」を比較すると、「体験機会への影響」の方が減少幅が大きい。

物価高騰が子どもの学校外の学習機会に与えた影響（世帯年収）



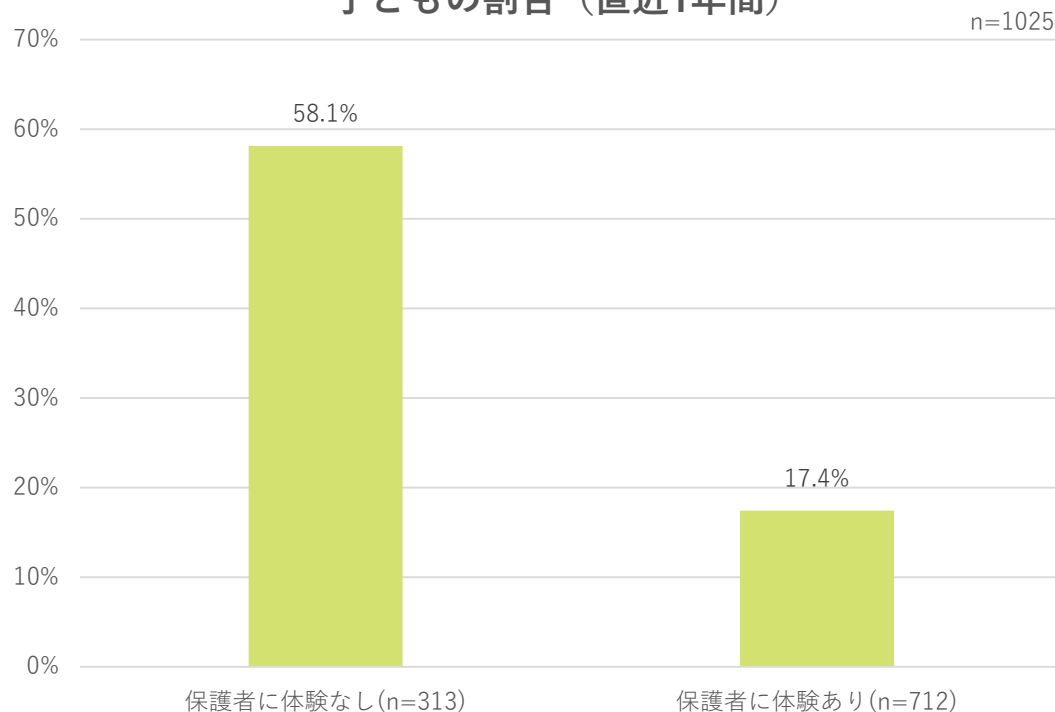
※「物価高騰は、お子様の学校以外の場での学習機会（※）にどのような影響を及ぼしていますか。※学習機会とは、塾・オンライン学習・通信教育、家庭教師、家庭での自主的な学習等の機会を指します。」という設問に対する回答結果。

調査結果 4

親の幼少期の体験と 貧困の世代間連鎖

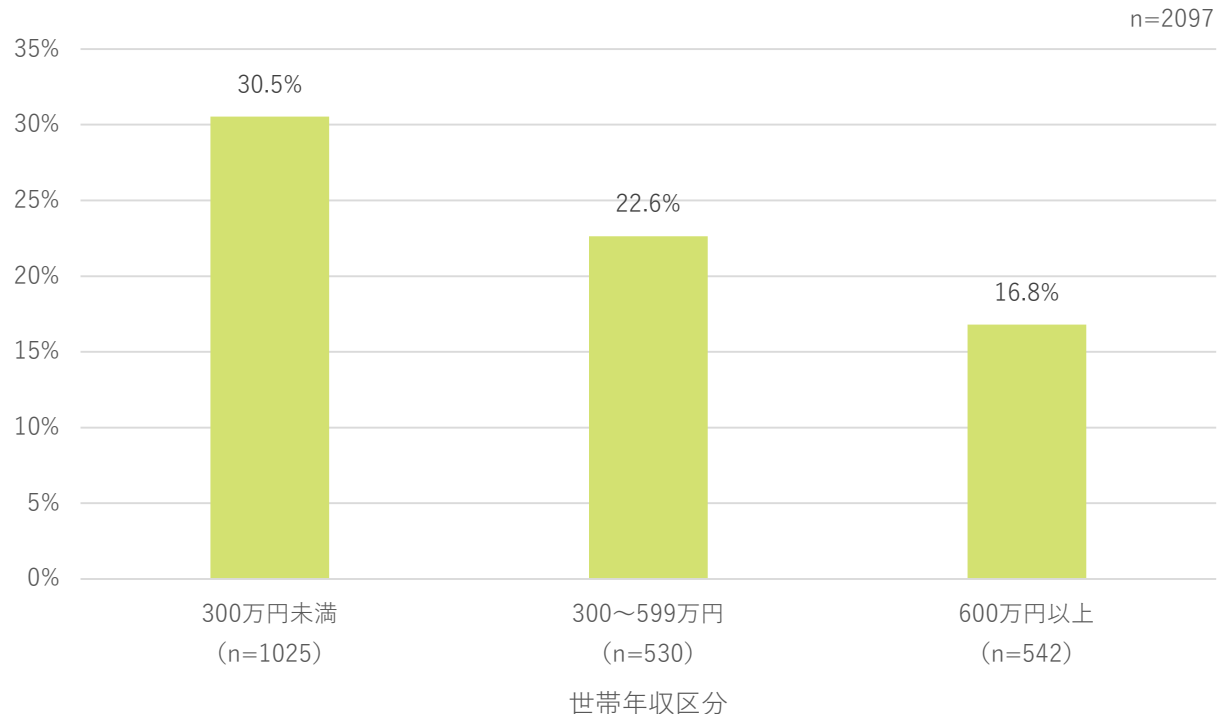
- ✓ 世帯年収が300万円未満でも、保護者が小学生の頃に体験活動に参加していた家庭では体験活動に参加している子どもの割合が高く、学校外の体験活動がない子どもの割合は、保護者が小学生の頃に体験活動に参加していなかった家庭と比較して、1/3以下となった。

世帯年収300万円未満の家庭で学校外の体験がない
子どもの割合（直近1年間）



- ✓ 現在の世帯年収が低い家庭の保護者ほど、自身が小学生の頃に学校外の体験活動を何もしていなかった割合が高い（13.7ポイントの差）。

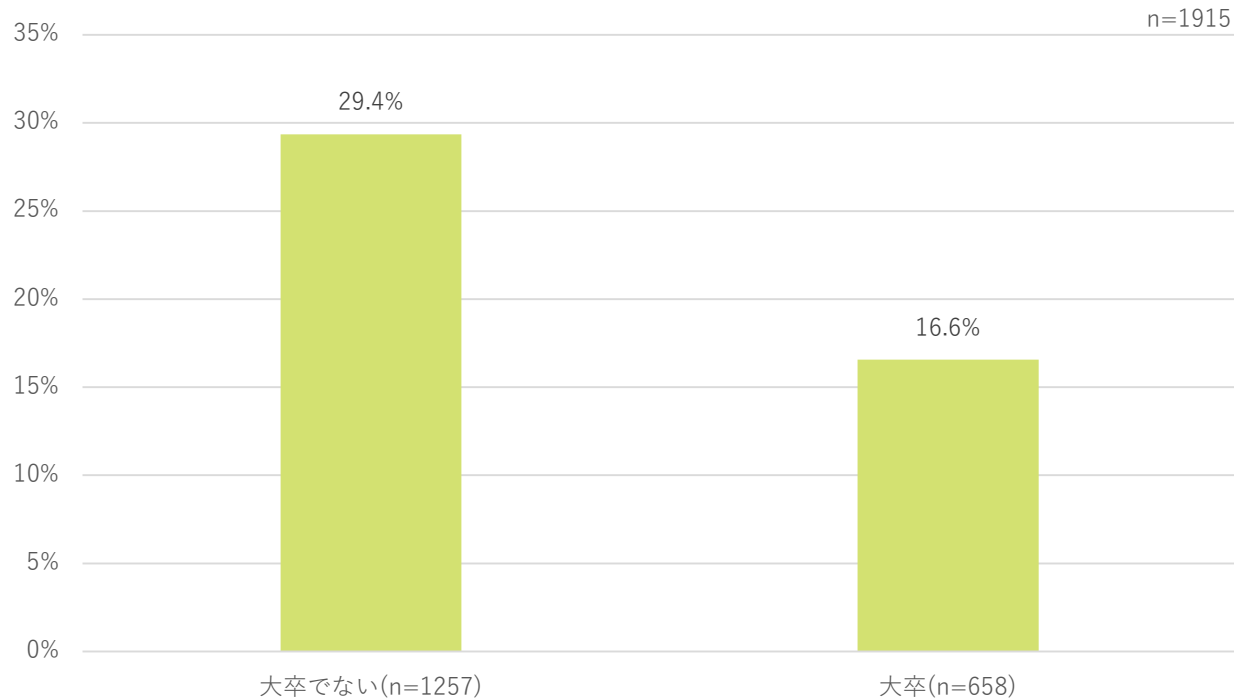
小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合



※ 「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で次のような活動を定期的にしていましたか。していた活動をすべてお選びください。」という設問に対し「何もしていなかった」と回答し、かつ「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。」という設問に対し「何もしていなかった」と回答した割合。

- ✓ 保護者の最終学歴が高い家庭ほど、保護者自身が小学生の頃に学校外の体験活動を何もしていなかった割合が低い傾向にある（12.8ポイントの差）。

小学生の頃に学校外体験がない保護者の割合



※回答者が自身の学歴について回答している1915名のうち、「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で次のような活動を定期的に行っていましたか。していた活動をすべてお選びください。」および「あなたご自身は、小学生の頃に学校以外の場で年に1回以上、次のような体験をしていましたか。していた体験をすべてお選びください。※ご家族や個人での私的な活動も含まれます。」という設問に対し、いずれも「何もしていなかった」と回答した割合。

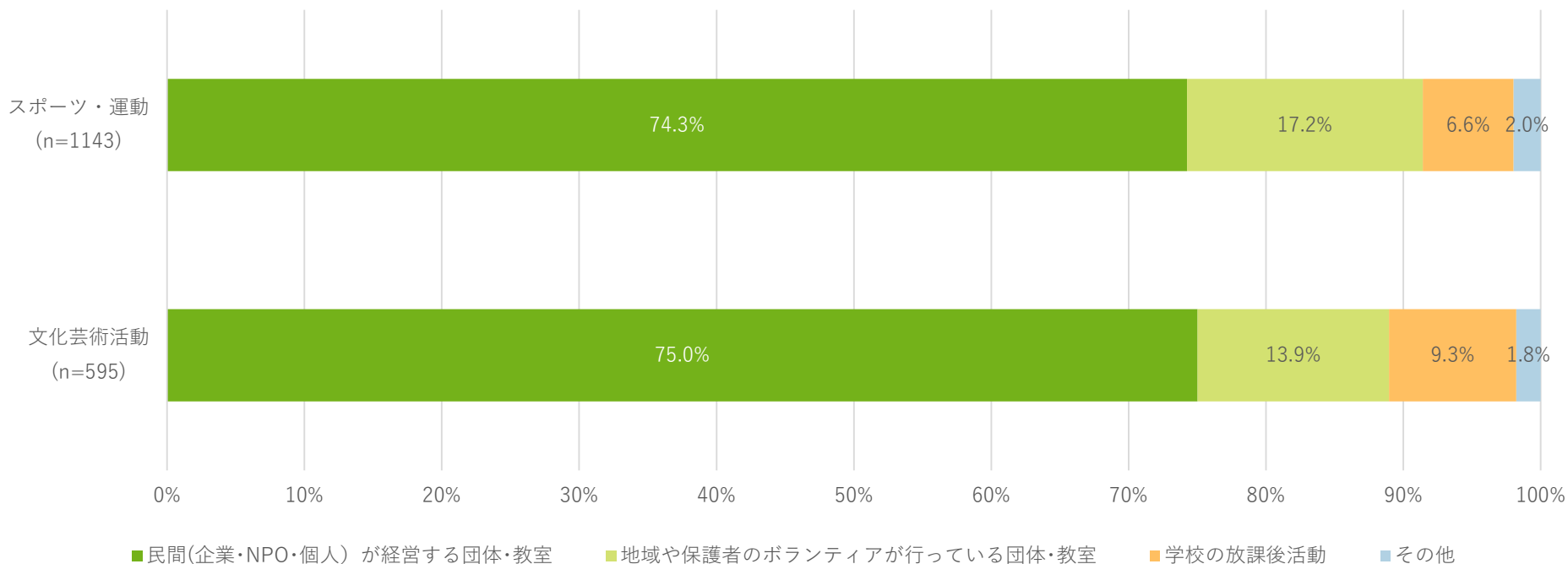
調査結果 5

多様な体験の担い手

最終

- ✓ 定期的な「スポーツ・運動」、「文化芸術活動」はいずれも、「民間が経営する団体・教室」が運営主体となっている割合が高い。
- ✓ 一方で、地域や保護者のボランティア、学校の放課後活動など、多様な体験活動の担い手が存在する。

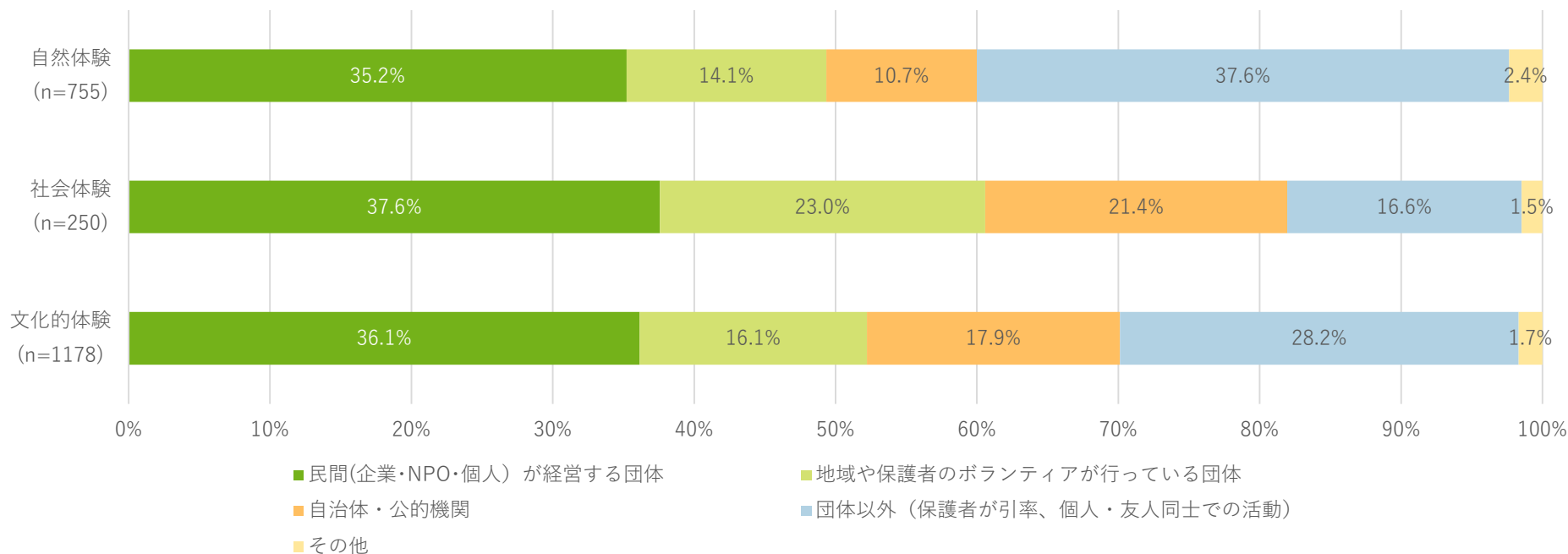
定期的な体験活動の運営主体



※「スポーツ・運動」、「文化芸術活動」それぞれに参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した体験活動について、お子様は、どのような団体や教室に所属して、活動を行っていますか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。

- ✓ 単発で行う体験活動は、分野によって運営主体の傾向が異なる。いずれの分野も民間経営が3割以上を占めた。また、自然体験や文化的体験では、個人や友人等の私的な活動である割合が2番目に多かった。
- ✓ 定期的な体験活動と同様、多様な体験活動の担い手が存在することがわかる。

単発で行う体験活動の運営主体



※「自然体験」「社会体験」「文化的体験」それぞれに参加した子どもがいる回答者に対し、「前問で選択した活動は、それぞれどのような団体が主催する活動ですか。一つの分野につき複数選択した場合は、最も活動頻度が多いものについてお答えください。」と質問した結果を元に、「国民生活基礎調査2021」の世帯年収割合でウェイトバックを実施した数値。

保護者から寄せられた声

子どもがやりたい体験をさせてあげられなかった経験（自由記述欄）

やりたいと言われても、どれも、経済的に無理なので、子供自身が、無理だよなって、何も言わなくなりました。だんだんわかる年齢になり、子供なりに我慢しているようで、申し訳なく思っています。

愛媛県／小学4年生保護者(40代女性)

母子家庭のため、周りの友達と同じように色々な習い事をさせてあげることができず悔しい。スイミング、ダンス、英会話、ピアノ、したいことをたくさんさせてあげたかった。

新潟県／小学2年生保護者(20代女性)

イベントへの参加や旅行など、家庭の経済的な理由から、無理な事が今までも今も、多々あります。

愛媛県／小学3年生保護者(40代女性)

シングルマザーなので何をするにもお金がなくて経験させてあげられない…。本当は色々経験させたい。

兵庫県／小学1年生保護者(40代女性)

ピアノをやりたいが、経済的な部分で出来なかった。旅行や日帰りでの水族館等へのお出かけもコロナが心配で行けなかった。

山梨県／小学4年生保護者(40代女性)

ピアノ教室、絵画教室に行かせたい。でも、ランニングコストがかかるので、行かせてあげられない。

東京都／小学4年生保護者(40代女性)

野球チームに入らせてあげたいがひとり親の為経済的に余裕がなく道具やユニフォームが用意してあげられなかった

神奈川県／小学4年生保護者(50代女性)

離婚した。幼稚園の頃から習っていたピアノをやめざるをえなくなった。やりたがっていたギターも金銭的に厳しい。

愛知県／小学6年生保護者(40代女性)

魚釣りをやりたがっていますが、私に知識・経験がないため、また金銭的余裕もないためさせてあげられていません。

熊本県／小学1年生保護者(40代女性)

サッカーをしたがりましたが私が経済的にも体力的にも無理でさせてあげられませんでした

宮崎県／小学4年生保護者(30代女性)

スポーツのクラブに通わせてあげたかった。いろいろな自然体験をさせてあげたかった。けど金銭的に全く余裕がなく生活するだけで精一杯です。

静岡県／小学6年生保護者(40代女性)

子供の将来の夢は保育士だったのですが、ピアノを習わせることができなかった。また兄弟はスイミングに通っていたのでかなり泳げるのだが、転居と転職のため経済的悪化となり小学生の子供はスイミングに通わせることはできなかった。

山口県／小学4年生保護者(40代女性)

※いずれも、世帯年収300万円未満の家庭の声。

お金がなくて旅費がかかる事が全くできない

新潟県／小学3年生保護者(40代女性)

プログラミング教室に行きたいと言ったが、月謝が高額だったのでウヤマヤにして諦めさせた。心苦しかったです。

愛知県／小学4年生保護者(40代女性)

自然の雪との戯れを体験させてあげたかったが、時間とお金の余裕がなかった。

兵庫県／小学1年生保護者(40代女性)

夏に海のキャンプに参加したいと言っていたけど、経済的にも私の体力的にも 厳しかった。

大阪府／小学4年生保護者(40代女性)

学校などで色々な体験のチラシをもらってくるのですが、やはり金額がかかるものが大半なので、参加はさせてあげられないです。

岐阜県／小学5年生保護者(40代女性)

いろんな体験させてあげたいけど母子家庭は費用面で辛い。

青森県／小学6年生保護者(30代女性)

友達が行っているから、という理由でスイミングに行きたいと言っていたが、入会金や月謝が高額で行かせてあげられなかった。

熊本県／小学1年生保護者(30代女性)

スポーツ系は保護者の当番が必要だがそんな時間は仕事なので当番も送り迎えも出来ない。ひとり親なので仕事をしなければお金が入らない。ひとり親家庭は金銭的にも時間的にも全く何もさせられない。

鳥取県／小学4年生保護者(40代女性)

海やプールに行ったり、釣り、キャンプ、スキー等経験させてあげられなかった。家庭状況、経済面等が理由で。

兵庫県／小学5年生保護者(30代女性)

ダンスをずっと習いたいと言っていたが、経済的に厳しかった

大阪府／小学4年生保護者(30代女性)

ダンス、ピアノなどいろいろやりたがっていたけど、月謝が高く経済的理由でやらせてあげられなかった。

広島県／小学6年生保護者(30代女性)

ピアノを習いたいと言っていたが、月謝が高くて払えそうもなく、諦めた

北海道／小学6年生保護者(30代女性)

最終

スポーツの習い事は収入減のために退会 自然体験や文化的体験はコロナで収入減や外出できないでいる

埼玉県／小学5年生保護者(40代女性)

海水浴や旅行に行きたがっていたが、コロナ感染で仕事を休む日があったり、休暇もとりにづらく、経済的にも余裕がなかった。

大阪府／小学4年生保護者(40代女性)

旅行に連れて行きたいが、父親がコロナ離職で金銭的に厳しい

千葉県／小学6年生保護者(60代男性)

生活に余裕が無い。物価上昇に追いつけない。送迎が出来ない。

山形県／小学5年生保護者(40代男性)

スキー教室や、サマーキャンプは金銭的余裕がなく行けなくなった。地域の科学館などのイベントも減った。

東京都／小学4年生保護者(40代女性)

ピアノは練習用のピアノ等を狭くて置けないのでやらせてあげられなかった。美術館に行きたいと言っていた時があったが、コロナ真っ只中で連れて行ってあげられなかった。

東京都／小学5年生保護者(30代女性)

スイミングスクールや旅行に行きたいと言っていたが、コロナ禍とその後の値上げで行けていない

東京都／小学1年生保護者(30代男性)*

キャンプ。やりたい時期にコロナで本人のやりたい期間を過ぎてしまった。

神奈川県／小学3年生保護者(30代女性)

コロナで安価な地域のイベントが無くなってしまった。

埼玉県／小学2年生保護者(40代女性)*

夏休みのキャンプ体験をさせてあげたかったが、付き添いが出来ずに断念した。スイミングスクールを続けさせたかったが、月謝が値上がりして辞めざるおえなくなった。

東京都／小学4年生保護者(40代女性)*

※「*」は世帯年収300万円～599万円の家庭の声。それ以外は世帯年収300万円未満の家庭の声。

疾病や障がい、就労環境等に関する声、体験の担い手に対するニーズ等についても多く声が寄せられた。

※今回のアンケート調査では、保護者全員分の就労形態のデータを取得していないため、就労形態については分析の対象外としている。

父親が障害者なので、付き添い送迎や金銭的にも無理なことが、学校以外での体験学問は無理がある。

山形県／小学5年生保護者(40代男性)

今の時代、ほとんどの行事に保護者同伴だから… 母子家庭なので母が仕事を休むわけには…です

大阪府／小学6年生保護者(40代女性)

倶楽部活動(は)、経済的、時間的(に)、(無理)なのと 自分が病氣療養中のため、そちらが優先してしまうため

山形県／小学6年生保護者(50代男性)

スポ少でサッカーをやりたいが、私がフルタイムで仕事をしているので当番などができないと思い断念した。

福島県／小学5年生保護者(30代女性)

水泳やダンス、自然体験、文化的体験をしたいということがあるが、経済的、家族の病氣によってすることができない

佐賀県／小学1年生保護者(30代女性)

スイミングスクールの様に送迎があると、もっと子供にいろんな体験をさせてあげられると思う。現状では、ひとり親や働かざるを得ない家庭にとっては子供の成長を促すための習い事をさせてあげることも難しい。

徳島県／小学5年生保護者(40代女性)

キッズダンスを習いたいと言われたが、障がいのある子を指導したことがないからと断られた。

北海道／小学2年生保護者(30代女性)*

プログラミングや工作などの体験会を、親が土日休みではないので、参加させてあげられなかった。

山梨県／小学2年生保護者(40代女性)*

うちの子は若干の発達障害がありますが、親が同行しない体験などは参加させて良いのかどうか判断ができないので参加させたことがありません。そのような部分をサポートしてくれる人員や制度などがある、またそれが情報として手に入りやすくしてくれるようなサポートが欲しい。

東京都／小学2年生保護者(40代女性)

市のホームページや広報誌にどんな活動をどこでやっているかを載せてほしい。個人でやっているものはほとんど情報が出てこず、近所付き合いやママ友がいない人からすると手段がなくて困ってしまう。

栃木県／小学4年生保護者(30代女性)*

※「*」は世帯年収300万円～599万円の家庭の声。それ以外は世帯年収300万円未満の家庭の声。

多変量解析の結果

提供：喜多下悠貴氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

最終

- ✓ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の喜多下悠貴氏により、子どもの体験活動への年間支出額を被説明変数として重回帰分析を実施した。なお、社会体験は参加者数が少ないため、分析対象から除外している。また、「文化芸術活動」、「自然体験」、「文化的体験」については、決定係数が低い点に留意されたい。
- ✓ 結果概要は以下の通り。
 - 「世帯年収」は、いずれの分野の年間支出額に対しても正の有意な効果があり、標準偏回帰係数も説明変数内で最も高い。
 - 「三大都市圏への居住」は「スポーツ・運動」への年間支出額に対して正の有意な効果があった。
 - 「子ども数（多子世帯であること）」は「単発で行う体験活動」への年間支出額に対して負の有意な効果があった。
 - 「保護者に大卒者がいないこと」が「スポーツ・運動」と「単発で行う文化的体験」への年間支出額に対して負の有意な効果があった。
 - 「保護者が小学生の頃に定期的な体験活動に参加していないこと」が「定期的な体験活動」への年間支出額に対して負の有意な効果があり、「保護者が小学生の頃に単発で行う体験活動に参加していないこと」が「単発で行う文化的体験」への年間支出額に対して負の有意な効果があった。

子どもの体験活動への年間支出額の規定要因に関する重回帰分析

被説明変数		体験活動への出費（定期）						体験活動への出費（単発）					
		スポーツ・運動			文化芸術活動			自然体験			文化的体験		
説明変数		偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値	偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値	偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値	偏回帰係数	標準 偏回帰係数	P値
世帯状況	世帯年収	33.024	0.163	**	18.157	0.100	**	13.841	0.134	**	6.465	0.099	**
	居住地域（三大都市圏ダミー）	11965.893	0.090	**	-2674.598	-0.022		2789.904	0.041		786.018	0.018	
	子ども数（多子世帯ダミー）	-2922.418	-0.020		-2528.373	-0.020		-3389.720	-0.046	*	-3038.512	-0.066	**
	ひとり親世帯ダミー	5602.732	0.039		-3470.989	-0.027		2031.764	0.028		948.703	0.021	
子ども	中学年ダミー	12858.199	0.091	**	-2253.253	-0.018		2464.994	0.034		1065.446	0.023	
	高学年ダミー	-2055.115	-0.015		206.087	0.002		997.122	0.015		-400.624	-0.009	
保護者	保護者学歴大卒者なしダミー	-10165.963	-0.076	**	-1974.509	-0.016		-1071.471	-0.016		-2571.000	-0.060	*
	保護者経験なしダミー（定期）	-14048.999	-0.100	**	-7944.325	-0.063	*	-3533.479	-0.049		-2006.135	-0.044	
	保護者経験なしダミー（不定期）	-1272.306	-0.010		-2753.273	-0.023		-1291.073	-0.019		-3589.118	-0.084	**
	定期学習費	0.049	0.078	**	0.023	0.042		0.016	0.051	*	0.010	0.051	*
定数項		16285.178		**	14945.369		**	981.770			9057.835		**
決定係数（R2）		0.096			0.028			0.036			0.047		

**有意水準1% *有意水準5%

最終

- ✓ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の喜多下悠貴氏により、①子どもがやってみたくと思う学校外の体験をさせてあげられなかった経験があること、②①に対する理由として保護者の余裕不足（経済的、時間的、精神的・体力的）を選択していること、③①に対する理由として保護者の経済的余裕不足を選択していることの3点を被説明変数として重回帰分析を実施した。なお、社会体験は参加者数が少ないため、分析対象から除外した。
- ✓ 子どもがやってみたくと思う学校外の体験をさせてあげられなかった経験があることに対しては、「保護者が小学生の頃に体験活動に参加していないこと」が負の有意な効果（上記経験が起きる確率を下げる効果）があることが分かった。この点については詳細な背景が分からず慎重に議論するべきだが、調査結果4を踏まえると、保護者に体験活動の経験がないことで、子どもの希望が保護者の経験の範囲内に収まっている状況が発生している可能性がある。
- ✓ 子どもがやってみたくと思う学校外の体験をさせてあげられなかった理由については、「世帯年収」が「保護者の余裕不足（経済的、時間的、精神的・体力的）」および「保護者の経済的余裕不足」の選択に対して、負の影響を与えていること、および「三大都市圏に居住していること」「子ども数」が「保護者の余裕不足（経済的、時間的、精神的・体力的）」および「保護者の経済的余裕不足」の選択に対して、正の影響を与えていることが分かった。

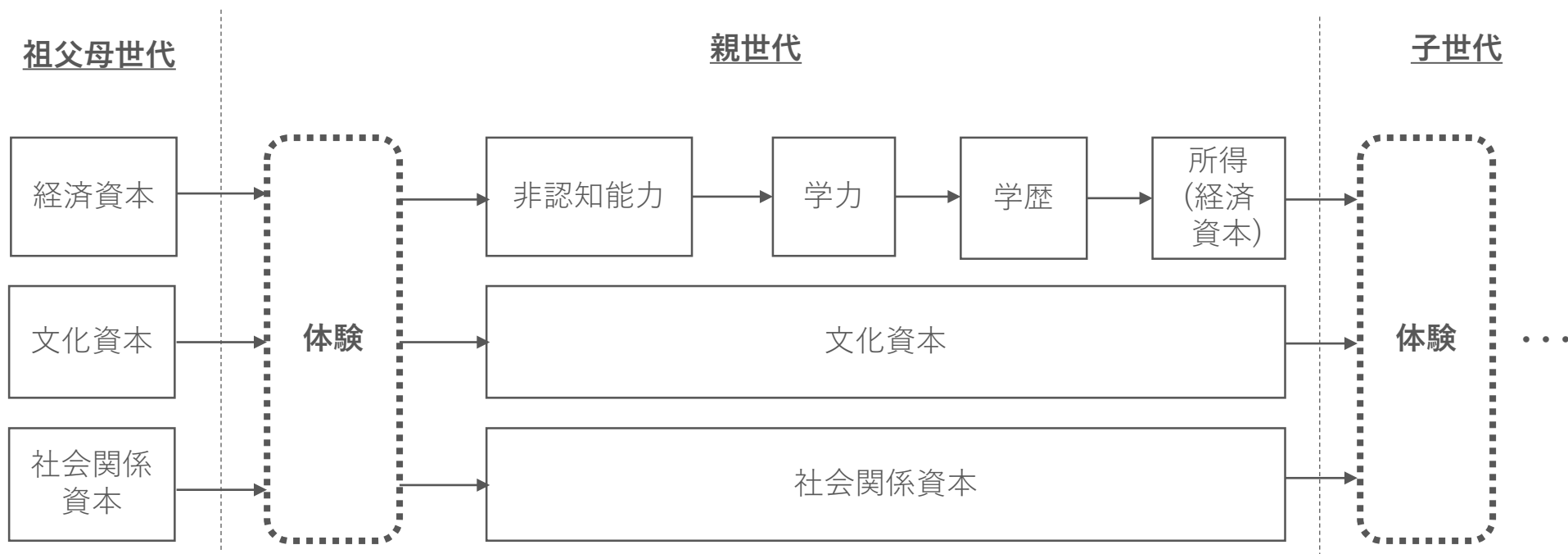
子どもに学校外の体験をさせてあげられなかった経験とその理由に関する重回帰分析

被説明変数		体験活動をさせてあげられなかった経験								
		①経験あり			②うち、保護者の余裕不足が理由			③うち、保護者の経済的余裕不足が理由		
説明変数		偏回帰係数	オッズ比	P値	偏回帰係数	オッズ比	P値	偏回帰係数	オッズ比	P値
世帯状況	世帯年収	-0.002	1.0002		-0.0006	0.9994 **		-0.0022	0.9978 **	
	居住地（三大都市圏ダミー）	0.410	1.1990		0.2411	1.2727 *		0.4102	1.5071 **	
	子ども数（多子世帯ダミー）	0.257	0.9799		0.2910	1.3378 **		0.2568	1.2928 *	
	ひとり親世帯ダミー	0.108	1.0582		0.1597	1.1732		0.1084	1.1145	
子ども	中学年ダミー	-0.092	1.0287		-0.1263	0.8813		-0.0925	0.9117	
	高学年ダミー	-0.271	0.7957		-0.3408	0.7112 **		-0.2708	0.7628	
保護者	保護者学歴大卒者なしダミー	0.081	0.9155		-0.0998	0.9050		0.0807	1.0840	
	保護者経験なしダミー（定期）	-0.842	0.4146 **		-0.7595	0.4679 **		-0.8424	0.4307 **	
	保護者経験なしダミー（不定期）	-0.591	0.4418 **		-0.7239	0.4849 **		-0.5913	0.5536 **	
	定期学習費	0.000	1.0000		0.0000	1.0000		0.0000	1.0000	
	定数項	-0.174	2.0940	**	0.099	1.1041		-0.174	0.8404	
	Nagelkerke	0.156			0.114			0.144		

**有意水準1% *有意水準5%

まとめ・提言

今回の調査結果や先行研究などを踏まえた場合、
 貧困の世代間連鎖の経路の一つに「体験格差」があるという仮説が考えられる。
 「体験格差」の解消は、貧困の世代間連鎖を断ち切るうえで重要な施策となり得る。



※本モデル図は、仮説を簡易的に示したものである。各要素の関係性は複雑であり、この図に示していない要素も数多く存在すると考えられる。また、全ての因果関係が示されているわけではない。今後、研究を重ね、仮説検証していく必要がある。

従来の子どもの貧困対策では、生活・学習支援や進学支援に重点が置かれ、子どもの体験には、十分に光が当たってこなかった。国や自治体は、体験格差の解消を重要な施策として位置づけ、次のような対策を講じることを求めたい。

1. 子ども・家庭への体験活動費の支援（＝体験奨学金）

- ✓ 体験活動の参加には参加費や用具代、交通費などの経済的な負担があり、子どもが体験をあきらめる理由として保護者の「経済的な事情」が多いことが調査から分かった。また、地域の多様な体験活動の担い手を重要な「社会資源」として捉え、それらを活かす方法を考えると、子ども・家庭に対して、地域の体験活動に参加するための費用の支援を行うことが有効な施策となり得る。
- ✓ また、体験を阻害する理由には複合的な背景があることを考慮し、単に資金的な援助をするだけでなく、子どもや家庭への相談支援や送迎、地域資源（体験活動）の開拓や繋ぎなどのコーディネートもセットで制度化する必要がある。特に困窮家庭の体験を支えていくには、福祉との連携が不可欠である。

2. 体験の担い手（主に市民活動）を支えるための基盤整備

- ✓ 特に保護者や地域住民、NPOなどによるボランティアな運営による体験活動は、子どもたちが安価に参加することができ、体験格差解消に重要な役割を果たしていると言える。また、体験活動の担い手が少ないエリアについては、新たに活動を創出していくことも必要である。
- ✓ これらの市民による体験活動を支え、担い手を増やしていくためには、全国的に減少傾向にある「自然の家」や「青年の家」であったり、各地の公共施設（文化施設、スポーツ施設など）を維持することも重要だと考える。また、市民がより公共施設を利用しやすい制度や運営を設計していくことも必要である。

3. 継続的な調査研究（施策の効果検証・実態把握）

- ✓ 国や自治体が体験格差の解消に向けた施策を行う場合、研究者等と連携した効果検証を行うことで、既存のプログラムを活かすとともに、地域の実情に合った効果的なモデルを作る必要がある。また、感染症流行や物価高騰などの影響で社会が大きく変化する中、体験格差の実態把握も継続的に行う必要がある。

「みてね基金」からのご支援によって 調査の実施や報告書の作成を行いました。



「みてね基金」は、株式会社MIXIが提供する子どもの写真・動画共有アプリ「家族アルバム みてね」の社会貢献活動です。子どもやその家族を取り巻く社会課題の解決を目的として活動している非営利団体を支援しています。

HP：<https://fund.mitene.us/>

※調査内容や結果に関する一切の責任は、調査実施主体であるチャンス・フォー・チルドレンにあるものとします。

<お問合せ>

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

東京都墨田区錦糸1-11-1ノイエヤマザキ5階

TEL：03-5809-7394 E-mail：info@cfc.or.jp

HP：<https://www.cfc.or.jp/>

※本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は必ず出所：公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンと明記してください。本資料の全文又は一部を転載・複製する場合は、著作権者の許諾が必要ですので、当法人までご連絡ください。

日付	改訂内容
2023年7月4日	初版発行
2023年11月24日	「調査結果5 多様な体験の担い手」のウェイトバックした数値を修正。